



見直すための 10の視点

ルーティン業務
から脱却!
保育の
“あたりまえ”
見直し術

① 相手目線、ニーズ発見：相手の立場から考えることです。

「相手が本当に欲しいものは?」「よかれと思ったことが相手の負担になっていない?」

② 当たり前、全部リセット：自分がもつ当然・常識を疑うことです。

「それは本当にあたり前?」「この常識は誰が決めたもの?」

③ 数字が語る真実：数字を使って客観的に考えたり効果を測ったりすることです。

「その言動の根拠となる数字は?」「客観的な証拠はある?」

④ 最終地点から逆算せよ：目的・ゴールから考えることです。

「そもそも何のためにやる?」「この仕事は目的達成につながる?」

⑤ AIで時間、倍速化：生成AIを様々な場面で積極的に使うことです。

「AIはどの仕事を代替できる?」「AIで効率は何倍になる?」

⑥ 足し算より引き算：いまやっていることをやめる・なくすことです。

「やめるべきことは何?」「何を手放すと速く終わる?」

⑦ あれこれを一本化：複数の活動や仕事を1つにまとめることです。

「まとめてやることはできない?」「『一粒で二度おいしい』にするには?」

⑧ シンプルこそ最強：いまやっていることを簡単・簡素化することです。

「もっとシンプルにすると?」「1ステップ・1回で終われない?」

⑨ 問いを変えれば世界が変わる：解くべき問題を設定し直すことです。

「問い合わせの設定はこれで正しい?」「本当の問題はどこにある?」

⑩ 立っている者は親でも使え：様々な人を活動や仕事に巻き込む・代替することです。

「他の人を巻き込めない?」「だれかに代わってもらえない?」